

シングルおよびペア競技のプログラム要素・内容に関する要件

2026-2027 シーズン

(すべての変更点は原文では下線で示されている)

総則

2026/27 シーズンより

ジャンプ・カスケード

ジャンプ・カスケードでは、
着氷した足が次のジャンプの踏み切り足となる。

ジャンプの間で氷上で1回転することは認められる。
(フリーレッグが氷に触れてもよいが、体重移動は不可)

オイラー(Euler)ジャンプは
「リスト外ジャンプ」とみなされる。

そのため

- 2つのリストジャンプの間で行われても
得点価値は付かない
- カスケード内のジャンプ数にも数えない

さらに

- ショートプログラムではオイラーを含むカスケードは禁止
- フリープログラムでは1回のみ使用可能

もし

カスケードの最初のジャンプが失敗し、リスト外ジャンプになった場合でもその要素はジャンプカスケードとして扱われる。

2026/27 シーズンより

ジャンプ・コンビネーション

ジャンプコンビネーションは

- シングル:2 または 3 ジャンプ
- ペア:2 ジャンプ

で構成される。

このとき

2 番目または 3 番目のジャンプはアクセル系ジャンプでなければならない。
(前のジャンプの着氷エッジからアクセル踏切エッジへ直接ステップで入る)

ジャンプ間で

氷上 1 回転は許可

(フリーレッグが氷に触れても体重移動は禁止)

コンビネーションのジャンプは
すべて完全な基礎点を持つ。

オイラーについて:

- リスト外ジャンプ扱い
- 基礎点なし
- ジャンプ数にカウントされない

また

- オイラー後に踏切足を変えることは禁止
 - フリーで1回のみ使用可能
-

ペアリフト

リフトグループは

女性が持ち上げられて男性の肩の高さを通過した瞬間のホールドによって決定される。

グループ 5 リバース・ラッソリフト

踏切時

女性の腕は背中側になければならない
(脚の間では不可)

禁止要素(2026/27 シーズン)

禁止されるもの:

- 不正ホールドのリフト
(ただしコレオグラフィック・ペアリフトは例外)

シングルスケーティング

ショートプログラム

男子(シニア)

- ダブルまたはトリプルアクセル
- トリプルまたはクワッドジャンプ
- ジャンプカスケード
 - ダブル+トリプル
 - トリプル+トリプル
 - クワッド+ダブル/トリプル
- ジャンプスピン
- キャメルスピンまたはシットスピン(1回の足替えのみ)
- コンビネーションスピン(足替え1回)
- ステップシークエンス(リンク全面使用)

女子(シニア)

- ダブルまたはトリプルアクセル
- トリプルジャンプ
- ジャンプカスケード
 - ダブル+トリプル
 - トリプル+トリプル

- d. ジャンプスピン
 - e. レイバックスピンまたはキャメル／シットスピン(足替えなし)
 - f. コンビネーションスピン(足替え 1 回)
 - g. ステップシークエンス(リンク全面)
-

ジュニア男子

- a. ダブルまたはトリプルアクセル
 - b. ダブルまたはトリプルルッツ
 - c. ジャンプカスケード
 - d. フライングキャメルスピン
 - e. シットスピン(足替え 1 回)
 - f. コンビネーションスピン(足替え 1 回)
 - g. ステップシークエンス
-

ジュニア女子

- a. ダブルアクセル
 - b. ダブルまたはトリプルルッツ
 - c. ジャンプカスケード
 - ダブル+ダブル
 - ダブル+トリプル
 - トリプル+トリプル
 - d. フライングキャメル
 - e. レイバックまたはシットスピン
 - f. コンビネーションスピン
 - g. ステップシークエンス
-

ショートプログラム要件

2026/27 より

ショートプログラムのジャンプカスケードでは

オイラーは禁止

フリースケーティング

シニア男子・女子

よくバランスの取れたプログラムは以下を含む:

- 最大 6 ジャンプ要素
(うち 1 つはアクセル系)
 - 最大 3 スピン
 - コンビネーションスピン
 - ジャンプスピンまたはフライングスピン
 - コレオグラフィックスピン
 - 最大 1 ステップシークエンス
 - 最大 1 コレオグラフィックシークエンス
-

ジュニア男女

- 最大 6 ジャンプ要素(アクセル 1 つ必須)
 - 最大 3 スピン
 - 最大 1 コレオグラフィックシークエンス
-

シングルフリーの追加規定

単独ジャンプ

回転数制限なし。

ジャンプカスケード／コンビネーション

フリーでは

- 最大 2 カスケード
または
- 1 カスケード+1 コンビネーション

可能。

ジャンプ数:

- 一方:最大 3 ジャンプ
- 他方:最大 2 ジャンプ

オイラー:

フリーで 1 回のみ使用可能

ジャンプの繰り返し

同じ種類のジャンプは
最大 3 回まで

ダブルジャンプ(ダブルアクセル含む)は
最大 2 回

トリプル・クワッドでは

- 2 種類のみ 2 回実施可能
- そのうち
クワッドの繰り返しは 1 種類のみ

同一ジャンプを単独で 2 回跳ぶ場合:

2 回目は
基礎点の 80%

スピン

コレオグラフィックスピン

プログラムの振付と音楽を強調するスピン。

条件:

- 最低 3 回転
- 片足または両足
- 足替え任意

技術審判が認定する。

基礎点は固定
GOE のみ採点

ペアスケーティング

ショートプログラム(シニア)

必須要素:

- ヒップホールドのリフト(グループ 3)
- ツイスト(ダブルまたはトリプル)
- スロージャンプ(ダブルまたはトリプル)
- ソロジャンプ(ダブルまたはトリプル)
- ペアコンビネーションスピン
- フォワードインサイドデススパイラル
- ステップシーケンス

ジュニアペア SP

- グループ 3 リフト
- ツイスト(ダブルまたはトリプル)
- スロー・ループ(ダブルまたはトリプル)
- ダブルルッツまたはダブルアクセル
- ペアコンビネーションスピン
- フォワードインサイドデススパイラル
- ステップシーケンス

ペアスピン

コンビネーションペアスピンは

- 2 つ以上の基本ポジション
- 各ポジション 2 回転以上

必要。

また

- 各選手にポジション変更
- 各選手に足替え

必要。

最低回転数

8 回転

ペアフリー(シニア)

含む要素:

- 最大 2 リフト(同グループ不可)
 - 最大 1 コレオリフト
 - 最大 1 ツイスト
 - 最大 2 種類のスロージャンプ
 - 最大 1 ソロジャンプ
 - 最大 1 ジャンプカスケード/コンビネーション
 - 最大 1 コレオペアスピン
 - 最大 1 デススパイラル
 - 最大 1 コレオシークエンス
-

ペアフリー(ジュニア)

- 最大 2 リフト
- 最大 1 ツイスト
- 最大 2 スロー
- 最大 1 ソロジャンプ
- 最大 1 カスケード/コンビネーション
- 最大 1 コレオペアスピン

- 最大 1 デススパイラル
 - 最大 1 コレオシーケンス
-

コレオグラフィック要素

コレオリフト

プログラムの振付を強調するリフト。

条件:

- 持ち上げあり
- 最低 1 回転
- ホールド自由

基礎点固定

GOE のみ評価

コレオペアスピン

最低 3 回転

片方または両方が回転。

基礎点固定

GOE のみ評価

コレオシーケンス

以下の動きを含む:

- スパイラル
- アラベスク
- イナバウアー
- ハイドロブレディング
- 最大 2 回転ジャンプ
- 小リフト
- など

図形は自由。

基礎点固定

GOE のみ評価。

2026-2027 シーズン フィギュアスケート主 なルール変更(整理)

1. オイラー(Euler)の扱いが大きく変更

今回の資料で最も大きい変更点です。

新ルール

- オイラーは「リスト外ジャンプ」扱い
- 基礎点は付かない
- ジャンプ数にもカウントされない

使用制限

- ショートプログラム:使用禁止
- フリー:1回のみ

影響

従来多かった

- $3Lz + Eu + 3S$
- $3F + Eu + 3S$

のような構成は

- Euは得点ゼロ
- ジャンプ数にも含まれない

つまり

実質2ジャンプ扱い

になります。

2. 「ジャンプコンビネーション」の定義が変更

新たに**明確な定義**が追加されました。

新定義

ジャンプコンビネーションは

- 2~3 ジャンプ(シングル)
- 2 ジャンプ(ペア)

で構成され、

後半ジャンプはアクセル系ジャンプ

である必要があります。

つまり

例:

- 3F + 2A
- 3Lz + 3A
- 3T + 2A + 2A

など。

ポイント

このタイプのジャンプは

すべてフル基礎点が与えられる

と明記されています。

3. ショートプログラムのジャンプカスケード

新ルール

ショートでは

オイラー入りカスケードは禁止

つまり

- ~~×~~ $3Lz + Eu + 3S$
- ~~×~~ $3F + Eu + 3S$

などは不可。

4. フリーのジャンプ構成の整理

ジャンプ要素数

フリー:

最大 6 ジャンプ要素

(男女・ジュニア共通)

カスケード／コンビネーション

フリーでは

- 最大 2 カスケード

または

- 1 カスケード + 1 コンビネーション
-

5. ジャンプの繰り返し規則の整理

同一ジャンプ

同じ種類のジャンプ

最大 3 回

ダブルジャンプ

ダブルジャンプ(2A 含む)

最大 2 回

トリプル／クワッド

- 2 種類のみ 2 回跳べる
- そのうち

クワッドの繰り返しは 1 種類のみ

単独ジャンプ 2 回の場合

もし

同じジャンプを

- 単独
- 単独

で 2 回跳んだ場合

2 回目は基礎点 80%

6. コレオグラフィックスピンの導入(明文化)

新しいスピんカテゴリ。

条件

- 最低 3 回転
- 片足または両足
- 足替え自由

採点

- 基礎点固定
- GOE のみ評価

プログラム構成を強化する要素。

7. ペアのリフト規定変更

リフトグループ判定

判定タイミング:

女性が男性の肩の高さを通過する瞬間

のホールドで決定。

8. リバースラッツリフトの新規制

グループ 5 リフトで

女性の腕の位置に制限

踏切時:

- 腕は背中側
 - 脚の間は禁止
-

9. 禁止要素

新たに明確化:

不正ホールドのリフトは禁止

(コレオリフトは例外)

10. ペア・ジャンプカスケード

ペアのカスケード／コンビネーションは

2 ジャンプのみ

と明記。

まとめ(重要変更 TOP3)

特に重要なのはこの 3 つです。

① オイラーの価値変更

- リスト外ジャンプ
- 得点なし
- SP 禁止
- FS1 回のみ

→ 3 ジャンプ構成が実質弱体化

② 新しいジャンプコンビネーション定義

アクセルを使うコンビネーションが
正式カテゴリー化

③ コレオグラフィックスピン導入

スピン構成が少し変化。